

調査の概要

【目的】

小学校学習指導要領の次期改訂に資するため、今次改訂の改善事項を中心に、各教科等の目標や内容に照らした児童の学習の実現状況について調査研究を行い、検討の基礎となる客観的データ等を得るとともに、教育課程の基準に係る課題の有無及びその内容等を検証・総括する。

【時期、対象学年及び教科等】

○調査時期：令和5年2月6日（月）から令和5年3月3日（金）

○調査対象：公立小学校 1,170校（義務教育学校前期課程含む） ※全学校の約7.1%、無作為抽出
実施児童数（延べ） 120,378人

○内容：各教科で、①今回の改訂の基本方針に関する事項、②各教科等の主な改善事項（今回の改訂で新設された事項、学年及び学校種を超えて移行した事項）、③従来、課題とされている事項の視点に基づくペーパーテスト調査を実施するとともに、一部教科で実技調査を実施。あわせて、児童、教師、学校長を対象とした質問調査を実施。

（教師、学校長については、オンライン形式にて実施。）

- ・ペーパーテスト調査：第3～6学年 国語、社会、算数、理科、音楽、図画工作、家庭、体育（運動領域、保健領域）、外国語（英語）
- ・質問調査（学校）（児童、教師）：第2～6学年 生活、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動、外国語活動
- ・実技調査：第6学年 図画工作、家庭、体育（運動領域）、外国語（英語）

(主なポイント)

各教科のペーパーテスト調査の結果から

- 「知識・技能」について、事実的な「知識」は一定程度の定着が見られるものもある一方、「知識」の概念としての習得や、習得した「知識」を日常生活に当てはめたり、現実の事象と関連づけて理解することには一部に課題があると考えられる。
- 「思考力・判断力・表現力等の育成」の観点から、例えば児童が具体的な問いを見いだす点等については、定着が見られるものもあると考えられる一方、目的に応じた課題解決、自分の考えや根拠を明確に説明するといった点については、課題があると考えられる。

生活、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動の質問調査の結果から

- 質問調査では、学習状況や学校生活等について概ね肯定的な回答が多く見られるが、同様の趣旨の項目において、教師の認識と児童の受け止めに差があるなど、課題が一部で見られる。

教育課程全体に係る質問調査

- 主体的・対話的で深い学びや、資質能力の3つの柱、見方・考え方などの学習指導要領が提唱する基本的な考え方については、現場の教育課程や学習指導の改善等により良い効果を与えたとの回答が多く見られる。
- 学習指導要領の趣旨実現を妨げる要素としては、多忙化や人員確保、研修時間の確保などの回答が多い。
- 標準授業時数について、教育課程編成に係る学校の裁量を広げることについては、多くの学校が賛成。年間授業時数を確保した上で、教科間の授業時数の調整を可能とするような取組を行ってみたいとする学校が多い。

令和4年度 小学校学習指導要領実施状況調査について（ペーパーテスト調査等）

ペーパーテスト調査等の概要

● 調査実施校：小学校 1,170 校 実施児童数 120,378人（延べ数）

※1教科1問当たり、3,000人程度の調査結果を得ることができるよう、調査対象を無作為抽出した。

● データを見るにあたって

○「1. 主な改訂のポイント」「2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題」「3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性」「4. 調査問題例」の4構成と「4」に対応する問題を別紙（問題例）で添付。

○「2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題」中の赤字部分は「相当数の児童ができています」もの、青字部分は「課題があると考えられる」もので、下線が付されているものは、「4. 調査問題例」及び別紙において問題例（質問項目例）が示されている。

※実技調査については、対象教科（図画工作、家庭、体育（運動領域）、外国語（英語））のペーパーテスト調査を実施する抽出校の中から調査を実施する学校を抽出。（1教科当たり350人程度：10校程度）

令和4年度 小学校学習指導要領実施状況調査の結果について（家庭）

1. 平成29年学習指導要領の主な改訂のポイント

- 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るための内容を充実
- 知識及び技能を活用しながら、家族や家庭、衣食住、消費や環境など身近な生活の課題を解決するための内容を充実
- 生活の中から問題を見だし、課題を設定し、解決方法を検討し、計画、実践、評価・改善するという一連の学習過程を重視

2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題

- 身近な生活の課題を解決するために必要な「思考力、判断力、表現力等」の育成については、具体的な生活場面をイメージして解答する出題に対して、日常生活を見つめ、物の使い方などの問題を見だし、解決すべき課題を設定することについては、相当数の児童ができている。
- 日常生活に必要な「知識及び技能」の習得については、材料に適したゆで方等に関する事実的な知識の習得に加え、学習内容の本質を深く理解するための概念としての習得にも課題があると考えられる。

3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

- 指導上の改善点
 - ・日常生活に必要な知識及び技能の確実な習得のために、実践的・体験的な活動を通して、生活事象の根拠などについて実感を伴った理解を深められるよう、指導の工夫を図る必要がある。
 - ・既習の知識及び技能や生活経験を基に具体的な生活場面をイメージする中で、解決すべき課題を設定できるよう指導を工夫し、引き続き問題解決的な学習の充実を図る必要がある。

4. 調査問題例（ペーパーテスト 小学校/家庭）

「身近な生活の課題を解決するために必要な『思考力、判断力、表現力等』の育成」の問題例（別紙1参照）

- 生活の中から見いだした問題に対して、解決すべき課題を設定する力が育成されているかを確認するための問題を出題。

環境に配慮した生活を営むために、物の使い方や捨て方などの問題（生活の中にある「もったいないこと」）に対して、ふさわしい課題を選択する。
【通過率 84.0%】

「日常生活に必要な『知識及び技能』の習得」の問題例（別紙2参照）

- 学習指導要領における指定題材である青菜とじゃがいもについて、適切にゆでる方法を理解しているかを確認するための問題を出題。

<ほうれんそうのゆで方>

- ①ふさわしいゆで方の選択／その理由の説明
【通過率 選択：70.2% 説明：28.3%】
- ②ゆでた後の冷まし方の選択／その理由の説明
【通過率 選択：54.0% 説明：12.0%】

<じゃがいものゆで方>

- ③ふさわしいゆで方の選択／その理由の説明
【通過率 選択：60.0% 説明：17.7%】
- ④ゆでた後の冷まし方の選択／その理由の説明
【通過率 選択：55.7% 説明：12.8%】

「身近な生活の課題を解決するために必要な『思考力、判断力、表現力等』の育成」の問題例

家庭 第5学年及び第6学年 内容C(2)イ 環境に配慮した生活について物の使い方などを考え、工夫することについて問う問題

○生活の中から見いだした問題に対して、解決すべき課題を設定する力が育成されているかを確認するための問題

・出題文中にある「生活の中にある『もったいないこと』」(日常生活の中から見いだした問題)に対して、取り組むべきふさわしい課題を選択できたかどうかを確認するための出題とした。

9 Jさんたちは、自分たちの生活が環境に影響を与えていることを知り、生活を改善しようと考えました。次の(1)から(3)の問題に答えましょう。

(1) Jさんたちは、自分たちの生活の中にある「もったいないこと」をグループで出し合い、取り組む課題を決めました。グループの課題としてふさわしくないものはどれですか。次の1から4の中から1つ選び、その番号を□の中に書きましょう。

生活の中の「もったいないこと」(Jさんのグループ)

- ・テレビや照明器具をつけたままねていることがある。
- ・入浴や食器洗いで、水をたくさん使っている。
- ・資源ごみを燃やすごみに入れて捨てていることがある。
- ・着られなくなった服を毎年捨てている。
- ・料理を作り過ぎて、食べ残すことがある。

- 1 電気の使い方を見直し、電気エネルギーを大切にしよう
- 2 水の使い方を見直し、工夫できる方法を考えて、水を大切にしよう
- 3 ごみ置き場のそうじの仕方を工夫して、快適な生活をしよう
- 4 物を生かす工夫を考えて、ごみを減らそう

【正答】

3

(27)

【通過率 84.0%】

「日常生活に必要な『知識及び技能』の習得」の問題例

家庭 第5学年及び第6学年 内容B(2)ア(i) 材料に適したゆで方、いため方を理解し、適切にできることについて問う問題

○学習指導要領における指定題材である青菜とじゃがいもについて、適切にゆでる方法を理解しているかを確認するための問題

- ・学習指導要領では、ゆでる調理における理解を促すために青菜とじゃがいもを指定題材としていることから、ほうれんそうとじゃがいものふさわしいゆで方（ゆでる手順のうち、ゆで方、冷まし方を取り上げた）を確認するための出題とした。
- ・①～④の選択（事実的な知識）に正答した場合であっても、選んだ理由を正しく記述できていない児童が多かった。その理由を適切に説明できるようにすることが、個別の事実的な知識を概念として習得するために重要であり、他の材料の「ゆで方」「冷まし方」の理解につながると考えられる。

6 Fさんは、ゆでる調理の学習をしました。次の(1)から(5)の問題に答えましょう。

(3) ほうれんそうとじゃがいもをゆでるときのゆで方とゆでた後の冷まし方について、よりふさわしい方法をAとB、CとDから1つずつ選び、その記号を□の中に書きましょう。また、そのゆで方とゆでた後の冷まし方を選んだ理由を□の中に書きましょう。



ほうれんそう



じゃがいも

①選択	【通過率 70.2%】	説明	【通過率 28.3%】
②選択	【通過率 54.0%】	説明	【通過率 12.0%】
③選択	【通過率 60.0%】	説明	【通過率 17.7%】
④選択	【通過率 55.7%】	説明	【通過率 12.8%】

【正答】

【正答例】

ほうれんそう		記号	選んだ理由	
ゆで方	A 水からゆでる	B	①選択	①説明
	B ふっとうした湯でゆでる		ふっとうした湯でゆでた方が色がきれいだから	(11)
冷まし方	C 水につける	C	②選択	②説明
	D ざるに移す		水につけた方が速く冷ますことができるから	(12)

じゃがいも		記号	選んだ理由	
ゆで方	A 水からゆでる	A	③選択	③説明
	B ふっとうした湯でゆでる		ふっとうした湯でゆでると表面だけ速く加熱されてしまうから	(13)
冷まし方	C 水につける	D	④選択	④説明
	D ざるに移す		水につけると水っぽくなってしまうから	(14)